

令和五年

謹賀新年



ながの農業協同組合  
代表理事組合長

宮澤 清志



新年明けましておめでとうございます。組合員、地域の皆様におかれましては新たな抱負と期待を抱き、新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、JA事業に対し格別なるご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の管内農業は、近年になく積雪が多く果樹の枝折れや棚倒壊などの被害が発生し、5月下旬からは低温傾向で米、野菜の初期生育の停滞や降電害にも見舞われました。6月下旬には急激に気温が上昇したため水稲・果樹等の生育に影響し、盆以降は豪雨・日照不足により一部の果樹の品目に肥大不良とぶどうの裂果が発生、九月二十日に襲来した台風十四号の強風により野菜の茎折れなどの被害で出荷量が減少しました。このような天候の中、水稲作況は北信地区で九八の「やや不良」となりましたが秋以降は安定した天候により、主力のリンゴは順調に生育が進み、平年並みの出荷量に持ち直しました。JAでは急激な気象変動に対応するため各場面での栽培技術指導や荷造・出荷誘導等の講習会・部会情報等を通じて対応してまいりました。

また、世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格上昇に加え、ロシアによるウクライナ侵攻等により化学肥料原料の国際価格が大幅に上昇し、海外原料に依存している我が国では肥料価格の高騰を始めとし、燃油・段ボール等あらゆる生産コストの

上昇が生産農家に大きいのしかかってきています。こうした状況に対応する為、令和四年度から六年度の三カ年で三億五千万円の予算規模とした「JAながの営農経営支援対策」を策定し、引き続き農業経営支援を強化してまいります。

本年は新たに策定した中期計画の二年目にあたり、自己改革工程表で定めたピーマンバラ出荷の振興、クイーンルージュの普及を始めとした農業所得増大並びに、准組合員を対象とした農業体験懇談会を開催するなど、目指す姿である「組合員とともに、地域とともに。農業振興と地域の豊かさを創造するため、私たちは常に前へ進んでまいります。」の実現に向け更に力強く取り組んでまいります。

地域農業やJAを取り巻く環境は、高齢化過疎化に伴う就農人口の減少や農業生産コストの上昇などに加え、今後はウイズコロナの下で、景気が持ち直して行くことが期待されていますが、世界的な金融引締めなどが景気を下押しするリスクが懸念されます。物価上昇や供給面での制約等の影響も十分注視し、今後も組合員の負託に応えるため、役職員一丸となり取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新春にあたり、組合員、地域の皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



副組合長 牧 良一

代表理事 小林 武郎

専務理事 斉藤 重雄

常務理事 中村 稔光

常務理事 小池 宏明

代表監事 山岸 今朝之

常勤監事 山岸 栄

外 役員一同

## JAながのが目指す3つの柱

- ◆ 地域農業振興と農業所得の向上
- ◆ 総合事業による地域の豊かさの創造
- ◆ 健全で持続性ある経営基盤の確立